

技術・家庭科 学習指導案

日 時 平成17年9月27日(火) 5校時
学 級 2年4組(男子18名 女子20名 計38名)
場 所 情報処理室
授業者 零石 和志

- 1 題材名 B 情報とコンピュータ 1 情報を活用して生活に生かそう
「情報社会の特徴と情報の取り扱い方」

2 題材について

(1) 題材観

今日の社会では、情報通信ネットワークが発達し、駅の自動改札や銀行のATM、コンビニのPOSシステムなど、生活の様々な場面で大量の情報がやりとりされ、生活は格段に豊かになった。家庭にはインターネットに接続されたパソコンが普及し、中学生でさえカメラつき携帯電話を持つようになった。このことは、情報が高度な価値を持ち、また誰もが容易に情報を収集、発信することができるようになったことを意味している。しかし、情報社会の影の部分の存在を忘れてはならない。インターネット上に存在する大量の情報の中には虚偽の情報や有害な情報も数多く含まれている。また、コンピュータによってデジタル化された情報は容易に複製・改ざんすることができる。コンピュータの向こう側にいる相手の顔が見えず、人間関係が希薄化し、仮想と現実の区別がつきにくくなる。それだけに情報を扱う人間のルールに対する理解とマナーを守った慎重な行動が求められている。

本題材は、学習指導要領において示される技術分野の『B 情報とコンピュータ』「(1)ア 情報手段の特徴や生活とコンピュータとのかかわりについて知ること」「(1)イ 情報化が社会や生活に及ぼす影響を知り、情報モラルの必要性について考えること」に当てはまる部分である。情報モラルとは、「情報社会において、適正な活動を行うための基になる考え方と態度」(平成14年6月文部科学省「情報教育の実践と学校の情報化」より)のことである。小学校段階では、指導要領の総則に「総合的な学習の時間や関連する各教科でコンピュータや情報通信ネットワークを活用する」とはあるものの、教科としては指導されておらず、情報の価値や情報モラルについての指導は各学校に任されているのが現状である。また、情報モラルという言葉自体、昭和62年の臨時教育審議会最終答申で使われ始めたものであるため、家庭の教育力に期待することは難しいと思われる。そこで、本題材をとおして、情報社会の特徴や情報社会に潜んでいる影の部分を具体的な事例を挙げて明らかにしながら、情報の価値や情報社会のルールやマナーについて考えさせていきたい。

(2) 生徒の実態について

本題材に関連して事前調査を行った結果から、コンピュータに対して大多数が好印象をもち、半数以上が自宅のパソコンや携帯電話でインターネットを利用したり掲示板を見た経験があることが分かった。中には、自分のWebページを持っている者も2名いた。しかし、情報モラル関連用語については、近頃問題となっている「ワンクリック詐欺」を聞いたことのある者は半数以下にとどまり、情報社会の影の部分に関する知識は乏しいことが予想された。掲示板を見たりメールのやりとりをした経験のある生徒が多いことから、情報モラルについての指導を急がなくてはならない。

(3) 基礎・基本の定着

本題材における基礎・基本は、「情報の価値や情報社会のルールやマナーについて知ること」であると考え。このことが、情報社会の影の部分から自分の身を守り、他者の権利を尊重しながら豊かで健康的な生活を送るための第一歩であると考え。

本題材における基礎・基本を定着させるための手立てとして、情報社会の特徴や情報の価値、なぜルールやマナーが必要なのか等について生徒自身が考え、他人の意見を参考に自分の考えを振り返り判断する時間を十分に確保したい。教師が全て教え込むのではなく自分たちの手で課題を解決させようとする事で、より自分たちの生活に関わる問題として捉えることができ、定着が図られると考える。

3 題材の目標

- (1) 情報手段の特徴や生活とコンピュータのかかわりについて知る。
- (2) 情報化が社会や生活に及ぼす影響を知り、情報モラルの重要性について考える。

4 題材の評価規準と評価計画・指導計画（3時間扱い 本時：3 / 3H）

時 指導目標	評価規準	生活や技術への関心・意欲・態度	生活や技術についての知識・理解
		(1)コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークの果たしている役割に関心を持ち、情報モラルについて考えようとしている。	(1)情報手段の発達と生活とのかかわり、及び情報化の進展が及ぼす影響に関する知識を身につけ、情報モラルの必要性について理解している。
1	情報手段の発達や情報化の進展について調べようとしている。 情報手段が発達してきた経過や特徴、及び情報化の進展に関する知識を身に付けている。	(1)	(1)
2	情報を収集・判断する場面で気をつけなければならないことについて考えようとしている。 情報社会の影の部分について知り、冷静に情報を判断することの重要性が分かる。	(1)	(1)
3 本時	情報を処理・発信する場面で気をつけなければならないことについて考えようとしている。 個人情報と著作権保護の重要性が分かる。	(1)	(1)

5 本時の計画

(1) 目標

情報を処理・発信する場面で気をつけなければならないことについて考えようとしている。
個人情報と著作権保護の重要性が分かる。

(2) 指導の構想

前時には、情報を収集・判断する場面に関する事例を扱った。本時は、処理・発信する場面で必要となる個人情報と著作権の保護についての指導を行う。

本時の導入では、実際に起こった事件の記事を示し、情報社会ではそのようなトラブルに巻き込まれることもあるのだと知らせて、学習内容への意欲づけを図りたい。展開では、サーバー機に保存した問題のある Web ページを見せ、それがインターネット上で公開されたらどうなるか、自分だったらどういう気持ちになるかを話し合わせたい。自分が被害者になったときの心情に迫ることで、他者の権利を侵害することの罪の大きさに気づかせるとともに、インターネットの匿名性からくる加害者の心の弱さにも注目させたい。また、インターネットを用いて個人情報や著作権等について調査させ、情報社会におけるルールやマナーの必要性について話し合わせ、今後の生活で個人情報や著作権とどのようにつきあっていくか考えを深めさせたい。終末では、学習内容に関する問題に取り組み、学習内容を確認させ、確実に自分のものとなるようにしたい。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C (努力を要する生徒への手立て)
	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	
関心意欲・態度	話し合いに積極的に参加し、情報を処理・発信する場面で気をつけなければならないことについて自分の考えを発表しようとしている。	情報を処理・発信する場面で気をつけなければならないことについて自分の考えをワークシートにまとめようとしている。	他の人の考えを聞かせ、それについてどう思うかを考えさせながら話し合いに参加できるよう支援する。
知識・理解	ワークシートの問題に取り組み、個人情報と著作権保護の重要性について正しい考えを述べ、その理由も説明することができる。	ワークシートの問題に取り組み、個人情報と著作権保護の重要性について、正しい考えを述べることができる。	必要に応じて個別指導を行い、教科書や黒板を見せながら理解させる。また、他の人の発表を聞かせる。

(4) 展開 (Step 2)

	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 3分	1 既習事項の確認	1 前時は情報を収集・判断するときの注意事項を学習したことを確認する。	・実際に起こった事件を紹介し、意欲付けを図る。	
	2 学習課題の把握	2 本時の学習課題を確認する		
学習課題： 情報を処理・発信するときの注意事項を学ぼう				
展開 40分	3 課題解決の見通し	3 サンプルWebページの問題点に気づき、これがインターネット上で公開されたらどんな問題や事件が起こるか、自分だったらどんな気持ちになるかを考え、意見交流をする。	・サーバー機にサンプルWebページを保存しておく。 ・どうしてそのような事件が起こるのか、インターネットの匿名性からくる誘惑と心の弱さにも気づかせる。	【関心・意欲・態度】情報を処理・発信する場面で気をつけなければならないことについて考えようとしているか。(発言・観察・ワークシート)
	4 課題の追究	4 インターネットを用いて個人情報や著作権の保護等について調査し、情報社会のルールやマナーについて知る。	・必要なページをあらかじめブックマークしておく。	
	5 課題の解決	5 調査したことおよびルールやマナーの重要性やその理由に関する自分の考えを発表し、意見交流を行って、全体のものとする。	・個人情報や著作権との正しい付き合い方について、理由もあわせて確認する(必要以上の情報を公開しない、著作物は許諾を得てから利用する等)。	
終末 7分	6 学習事項の明確化	6 ワークシートの個人情報や著作権保護についての問題に取り組ませる。	・著作権や個人情報を保護することは誰もが守らなければならない社会のルールであることを確認させる。	【知識・理解】個人情報と著作権保護の重要性が分かったか。(発言・ワークシート)
	7 学習評価	7 自己評価カードに学習状況の自己評価を行う。		

